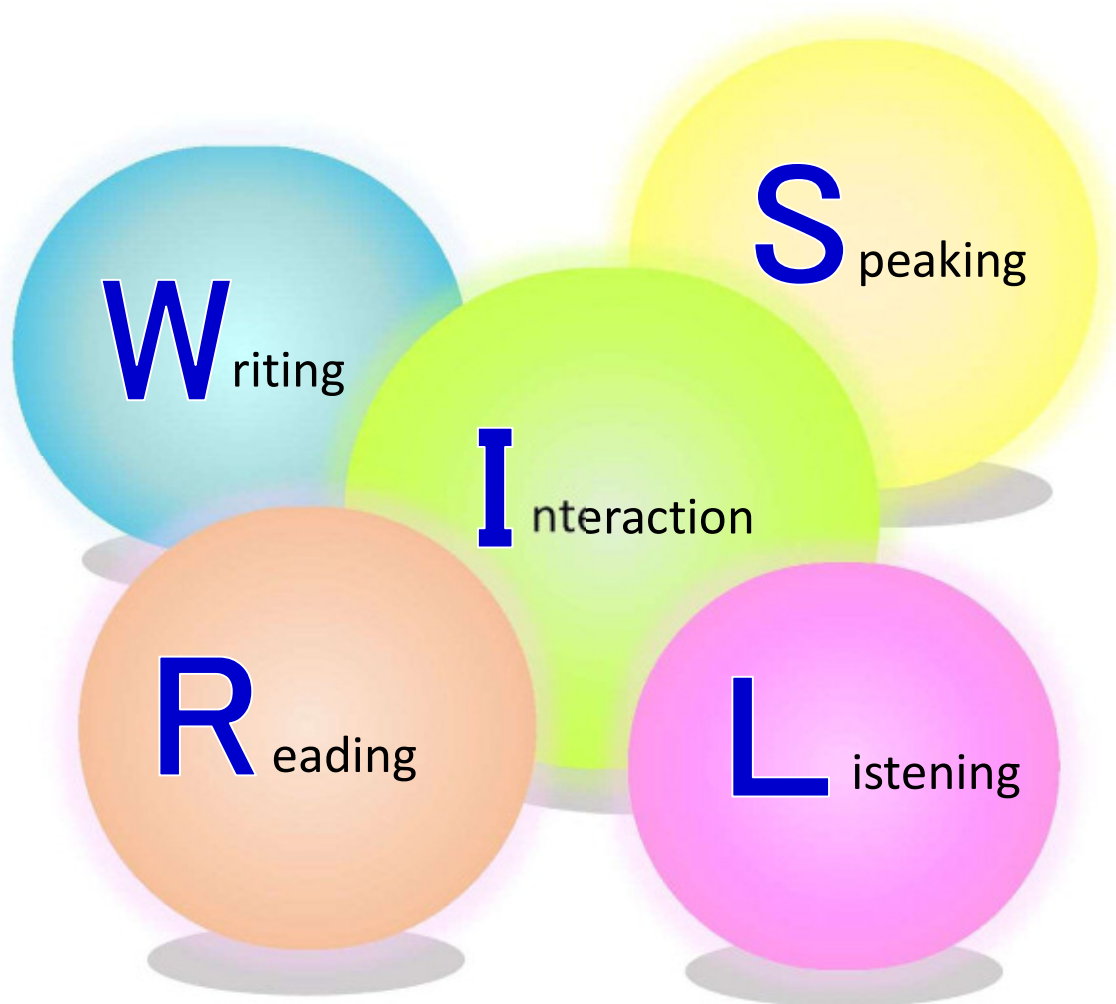


平成30年度調査研究 研究紀要

ぐるめ版

中学校外国語教育ハンドブック



平成 3 1 年 3 月

久留米市教育センター

中学校外国語教育ハンドブック

目次

I	中学校外国語教育 Q&A	1
Q 1	これからの中学校外国語科で重視されることは？	2
Q 2	全国学力・学習状況調査ではどのような問題が出題されるのか？	4
Q 3	小学校ではどのようなことを学習しているのか？	7
II	授業改善への提言～コミュニケーション能力を高めるために～	9
提言 1	言語活動を中心として授業を構想しよう！	10
提言 2	「やり取り」と「発表」を関連させて指導しよう！	12
提言 3	会話を継続・発展させる表現を身に付けさせよう！	13
提言 4	語彙や文法はコミュニケーション場面を通して指導しよう！	15
提言 5	授業は英語で行うことを基本としよう！	17
提言 6	構成を意識しながら書くことを指導しよう！	19
提言 7	プロジェクト学習で生徒が主体的に学ぶ授業を構成しよう！	20
III	授業実践のための参考資料	23
実践 1	第1学年	
	「お気に入りの人や物を紹介し、それに対して質問しよう」	24
実践 2	第2学年	
	「ALTに久留米の紹介をしよう」	27
実践 3	第3学年	
	「ALTのよさが伝わる推薦文を書こう」	30

第1章

中学校外国語教育 Q & A

これからの中学校外国語教育で求められていることについて、様々な教育情報を基に「Q & A」方式で紹介します。

Q1

学習指導要領の改訂に伴い、中学校外国語科では、どのようなことが重視されていますか？

「外国語を使って何ができるようになるか」の重視

社会のグローバル化が急速に進展する中、外国語によるコミュニケーション能力は、一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定されます。そのため、生徒の将来的な可能性を広げるためには、英語を用いて情報や考えなどを発信し、互いの考えを伝え合い理解し合うことができるようにすることが重要になります。



しかし、実際の授業では、文法・語彙等の知識がどれだけ身に付いたかという点に重点が置かれていることが多く、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて自分の考えや気持ちを適切に表現することなどに課題があるという現状が報告されました。

そのため、新学習指導要領では、知識・技能を実際のコミュニケーションにおいて活用し、思考・判断・表現することを繰り返すことで獲得されるという外国語学習の特質を踏まえ、国際的な基準である CEFR（セファール）を参考に、「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の5つの領域で英語の目標が設定されました。つまり、知識・技能が「どれだけ身に付いたのか」ではなく、実際のコミュニケーションにおいて「外国語を使って何ができるようになるか」ということが重視されているのです。

小・中・高等学校の学びを接続させることの重視

新学習指導要領では、小・中・高等学校のいずれにおいても、「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の5領域別に目標が設定されました。

ここには、小学校における外国語教育の早期化・教科化を受け、各学校段階の学びの円滑な接続を図り、外国語教育の一層の充実を図ろうとする意図があります。そのため、中学校においては、これまで以上に、小学校や高等学校の学びを踏まえた授業づくりが求められます。



やり取りや即興性を意識したコミュニケーションの重視

新学習指導要領では、従来の4領域から5領域別に目標が設定されました。「話すこと」を「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」の2つに分けて5領域とした背景には、「やり取り」や「即興性」を意識した言語活動が十分ではないという現状認識や、発信能力を更に高める必要があることなどが挙げられます。

「やり取り」や「即興性」を重視するとは、話すための原稿を事前に用意してその内容を覚えたり、話せるように練習したりすることなく、不適切な間を置かずに関わり手と事実や意見、気持ちなどを伝え合うことを指します。このことについては、小学校外国語科においても「その場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする」という内容が示されており、中学校の外国語科との接続が意識されていることがわかります。

このように、これからの外国語教育では、小・中・高等学校が一貫して、コミュニケーションの目的や場面、状況等を明確にし、やり取りや即興性を意識したコミュニケーション、つまり児童生徒同士のインタラクションを大切にしたい言語活動を中心に授業を行うことが求められているのです。

<授業改善のポイント>

これからの授業では、CAN-DO リスト形式による学習到達目標を活用しながら、生徒が「何ができるようになるか」を考えて授業づくりに取り組む必要があります。また、小学校や高等学校における外国語教育にも目を向けることが重要になります。特に、生徒同士のインタラクションを大切にしたい言語活動を仕組むことが大切です。

コラム

英語の目標設定の基になっている“CEFR”(セファール)って何？

“CEFR”とは、“Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment”(外国語のための学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠)のことです。CEFRでは、言語を用いてメッセージをやり取りすることに学習活動の重点を置いており、外国語への習熟度を、学習者、指導者、評価者が同一の基準で判断することを可能にしています。大きくA(basic user)、B(independent user)、C(proficient user)のレベルに分け、さらにそれぞれを2レベルに分けた6段階について、段階的にCAN-DO形式で「～できる」という表現でそれぞれのレベルを示しています。新学習指導要領では、中学校でA1～A2、また高等学校で、専門科目を含めてA2～B2レベルを目指すこととしています。

Q2

平成31年度から実施される全国学力・学習状況調査では、どのような問題が出題されるのですか？

全国学力・学習状況調査問題から、外国語教育の方向性を探る

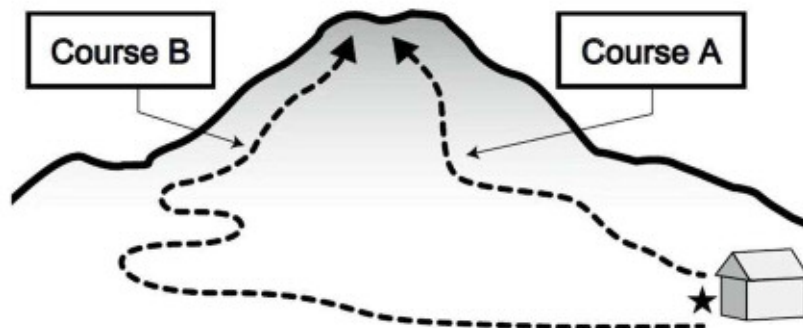
平成31年度から全国学力・学習状況調査において中学校英語が実施されることになっています。この調査は、学習指導要領の理念・目標・内容等に基づき、英語の「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の力がバランスよく育成されているかという観点から生徒の英語力等を調査し、その結果を教育委員会や学校が指導改善・充実に活用していくことを目的としています。そのため、全国学力・学習状況調査の問題を分析することで、今後の英語教育の方向性を探ることができます。

平成30年度に実施された予備調査では、具体的には次のような問題が出題されました。それぞれの問題には、どんな特徴があるのか見てみましょう。

パート1 「聞くこと」

③ (放送問題)

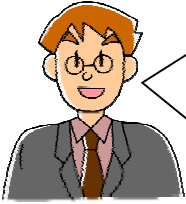
カナダでホームステイ中のあなたは、友達と山登りをすることになりました。これから、山登りに詳しい人が、次の図を見せながら、あなたに事前のアドバイスをしてくれます。その人が一番伝えたいことはどのようなことですか。最も適切なものを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。



- 1 Course B takes more time.
- 2 Course A is too difficult.
- 3 The weather on the mountain changes quickly.
- 4 You have to start before 8:00.

【スクリプト】

You are going to take Course A and start climbing at ten o'clock tomorrow, right? But you have to take Course B and start earlier. Course B takes more time, but it is easier than Course A. Course A is too difficult for junior high school students. The weather on the mountain changes quickly. I'm afraid it'll be rainy tomorrow afternoon. So you need to start before eight. Starting at ten is too late. That's my advice.



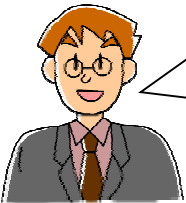
放送問題は、これまでの出題形式と異なり、全て1回の放送を聞いて解答する形式になっているため、注意する必要があります。この問題では、何をアドバイスしようとしているのか要点を聞き取ることが求められていますが、最初に明日の出発時刻のことに触れていることに目を向けると、正解が4であることがつかみやすくなります。授業の中で、要点の聞き取り方を指導することが重要になりますね。

4 (放送問題)

英語の授業中に、先生からある提案があり、用紙が配られました。先生の話聞いて、あなたの考えを1文以上の英語で簡潔に書きなさい。

【スクリプト】

Our English teacher Mike is going back to his country this month. Let's do something with him at school. What do you want to do with him? Give me your answers after class.

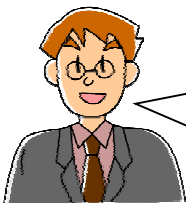


この問題では、先生からの提案内容を聞き取った上で、自分の考えを述べることが求められています。しかも、解答時間は1分となっており、即興的に自分の考えを整理することが必要になります。

パート2 「読むこと」

8 次の英文は、英字新聞に投稿されたある中学生からの意見です。これを読んで、この生徒に向けてあなた自身の考えとその理由を英語で書きなさい。

These days, taking pictures and video is getting easier.
Which do you often use to remember good times, pictures or video?
I usually take video to remember good times. I think that video is better than pictures because it has sound.
What do you think?



この問題では、英文を読んで意味を理解するだけでなく、書かれていることに対する自分の考えを整理し、理由を挙げながら述べることが求められています。

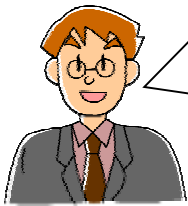
パート3 「書くこと」

10 初めて日本を訪れる外国人観光客向けに、パンフレットを作ることになりました。あなたは、A Gift from Japan! (日本らしいお土産) の記事を担当します。そこで、あなたがすすめたいものを1つ決めて、理由とともに30語以上の英語で記事を書きなさい。

※ 短縮形 (I'm や don't など) は1語と数え、符号 (, や ?) は語数に含めません。

(例) No. I'm not. 【3語】

The image shows a flyer template for 'A Gift from Japan!'. The title is in a bold, sans-serif font. To the right of the title are three stylized cherry blossom icons. Below the title is a large rectangular area with horizontal dashed lines for writing. To the right of this area is a smaller box containing a camera icon and the text: '※ここには、あなたが選んだお土産の写真が入ります。' (In this space, the photo of the souvenir you chose will be placed.)



この問題も、他の問題と同様にコミュニケーションの目的や場面、状況等が具体的に示されています。お薦めするためには、お土産のよさが伝わるように、構成を考えながら書く必要があります。また、「初めて日本を訪れる観光客」という条件もあるため、相手に応じた説明を加えながら述べることも重要になりますね。

<授業改善のポイント>

これからの授業では、実際のコミュニケーション場面を意識した言語活動を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて自分の考えや気持ちなどを適切に表現する力を高めていく必要があります。また、聞いたり読んだりして内容を理解するだけでなく、聞いたり読んだりしたことを基に自分の考えを述べる機会を設定することも重要になります。

Q3

小学校の外国語活動や外国語科では、どのようなことを学習しているのでしょうか？

基本的には音声中心、外国語科では文字指導も！

小学校中学年に新設された「外国語活動」では、「聞く」「話す」という音声を中心とした言語活動を通して、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませます。また、高学年に新設された「外国語科」では、音声に加えて、文字を取り扱いながら「読む」「書く」の指導も行います。

つまり、これからの生徒たちは、小学校の段階で既に600～700語を学習し、アルファベットの読み書きは

もちろん、音声で十分に慣れ親しんだ表現については、短い文章を読んだり書き写したりすることができるようになっているのです。



三人称や過去形、動名詞についての学習も！

「外国語科」では、三人称や過去形、動名詞についても取り扱います。しかし、小学校では、中学校のような明示的な文法指導を行わないところに特徴があります。

“I went to Okinawa.” という表現を例に挙げると、「『沖縄に行った。』と伝える時は、“I went to Okinawa.” と言います。」と説明するに止め、「過去形」という用語を指導したり、動詞の変形を練習させたりして、「過去形」の文法事項を理解させることはしません。

また、“I like playing tennis.” という表現についても、“playing tennis” の部分に焦点を当て、動名詞の使い方を理解させることはしません。

つまり、小学校段階では、具体的なコミュニケーション場面に必要な表現として、“I went to Okinawa.” や “I like playing tennis.” といった表現を理解しているのです。

<授業改善のポイント>

これからの授業では、音声を中心とした言語活動を通して学習する小学校の学びを生かし、教師と生徒、生徒同士のインタラクションを主体とした授業を構成することが大切です。ただし、生徒が “I went to Okinawa.” や “I like playing tennis.” といった表現を使用できるからといって、文法について理解できていると勘違いせず、生徒の気づきを生かしながら文法について理解できるようにする必要があります。

小学校外国語教材(「We Can!」「Let's Try!」)に設定された主な活動

小学校外国語新教材(「We Can!」「Let's Try!」)には、「Hi, friends!」に設定されていた「Let's Listen」、「Let's Sing/Chant」、「Let's Play」、「Activity」に加えて、新たな活動が新設されています。ここでは、参考のためにそれらの活動を紹介します。

【Small Talk】

この活動では、指導者のまとまった話を聞いたり、児童がペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりします。それまでに学習した表現を繰り返し使用して定着を図ることをねらいとしています。



<Small Talk の例>

I like soccer. I like (チーム名), so I always watch soccer games on TV.

Who likes soccer? (児童に挙手を促しながら聞く) Do you watch soccer games on TV? My mother and father like sumo. They always watch sumo on TV. Do you watch sumo? I never watch sumo match on TV.

【Let's Watch and Think】

この活動では、デジタル教材に収録されている映像を見ながら、英語でまとまりのある話を聞き、映像内の場面や状況などをヒントに、思考力・判断力・表現力等を駆使して、新しい語句や表現の意味を推測したり概要を捉えたりします。今回の新教材の目玉の一つでもあります。



【 Let's Read and Write】

この活動では、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現をワークシートに語順を意識しながら書き写したり、友達が書いた文を読んだりします。



【STORY TIME】

全てのユニットの最後に絵本型教材 STORY TIME のページが設けてあります。この活動では、英語の自然な音声を繰り返し聞き、絵を手掛かりにその意味内容を推測したり、文字と結び付けたり、単語や文、語順などの認識を深めたりします。



第2章

授業改善への提言

～コミュニケーション能力を高めるために～

コミュニケーション能力を高めるためには、授業づくりでどのようなことを大切にすべきか、具体例を挙げながら提案します。

授業への提言 Part1

言語活動を中心として授業を構想しよう！

これまでの言語活動との違いに気を付けて

新学習指導要領では、外国語科の目標に「外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーション能力を育成する」と明記され、言語活動を中心とした授業を行うことが一層求められるようになりました。



また、「言語活動は、『実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなど』の活動を基本とする。」と示され、現行の学習指導要領では言語活動に含まれる「言語材料について理解したり練習したりする活動」と区別されました。それは、コミュニケーション能力を育成するためには、生徒が単に英語を使用するのではなく、生徒が伝えたい、知りたいという思いをもち、考えや気持ちを伝え合うために英語を使用することが重要だからです。

もちろん、このような言語活動を成立させるためには、「言語材料について理解したり練習したりする活動」を通して、言語材料についての理解を深めることも大切です。しかしながら、そのような活動を行う際に大切なことは、パターンプラクティスを機械的に繰り返すのではなく、生徒が言語活動の目的や言語の使用場面を意識しながら学習し、言語材料を意味のある文脈の中で活用できるようにすることです。

そのため、これから単元を構想する際には、生徒が互いに考えや気持ちを伝え合いたいと思うような言語活動を設定し、その言語活動につながるように「言語材料について理解したり練習したりする活動」を位置づけることが大切になります。

外国語教育の学習過程を意識して指導しよう

これからの外国語教育では、小・中・高等学校が一貫して、コミュニケーションの目的や場面、状況などを明確にして授業を展開していく必要があるため、新学習指導要領では、小学校、中学校、高等学校のいずれにも、「外国語教育における学習過程」が示されました。

そのため、下記のような学習過程を意識しながら指導することがポイントになります。

- ① 設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する。
- ② 目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる。
- ③ 目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う。
- ④ 言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う。

ポイント1

コミュニケーションの目的や場面、状況等を理解させる

コミュニケーションの目的や場面、状況等を示すイラストや写真を提示したり、ALT等を活用しコミュニケーションのモデルを示したりして、「何のために」「だれと」「どのような方法で」伝え合うのか、目的や場面、状況等を理解させます。

コミュニケーションでは、目的や場面、状況等に応じて伝える内容や表現方法は異なります。生徒が思考力、判断力、表現力等を働かせながら活動できるようにするためには、目的や場面、状況等を細かに理解させる必要があるのです。

ポイント2

生徒と学習到達目標を共有しながら学習の見通しを持たせる

「何ができるようになるのか」という学習のゴール像を確認し、そのためにどのような語彙や表現が必要かを生徒に考えさせます。そうすることで、生徒が必要感を持って言語材料についての学習に取り組むとともに、具体的なコミュニケーション場面とつなぎ言語材料についての理解を深めていくことができます。

ポイント3

生徒自身に学習を振り返らせる

コミュニケーションを通して、「自身の考えがどのように深まったのか」、「どのような力を身に付けたのか」と内容面や言語面から振り返らせます。そうすることで、生徒がコミュニケーションの有用性や自身の英語力の高まりを実感し、学びの意義を味わうことができます。

コラム

PICNIC～言語活動の仕掛けづくり～

立教大学の秋山教授は、「ピクニック（PICNIC）」というキーワードで言語活動の仕掛けづくりを提唱されています。

生徒のコミュニケーションを活性化させるためには、「生徒にコミュニケーションの目的を持たせることが大切であり、しかも、その活動は面白くなければならない。」「また、どんな場面でのコミュニケーションなのかを生徒に意識させることも大切である。それによりことばの使い方、ジェスチャー、声の大きさや調子なども決まる。」「インタラクションを通じてコミュニケーションを達成し、できることなら、ペアやグループで助け合って何かを達成できる活動がよい。」と述べてあります。

これらを視点として言語活動を設定してみてはいかがでしょうか？

ピクニック(仕掛けづくりのキーワード)

P	Purpose	目的がある
I	Interesting	おもしろい、興味深い
C	Context	状況、コンテキスト
N	Need	生徒の必要性
I	Interaction	インタラクション
C	Cooperative	助け合ってつくる

授業への提言 Part2

「やり取り」と「発表」を関連させて指導しよう！

「話すこと[やり取り]」と「話すこと[発表]」の関連は？

新学習指導要領では、領域として「話すこと」が「話すこと[やり取り]」と「話すこと[発表]」に分けられました。2つの領域の大きな違いは、「話すこと[発表]」が一人の話者が連続して話す場面での話す力を育成するのに対して、「話すこと[やり取り]」では複数の話者が相互に話す場面での話す力を育成することにあります。また、学習指導要領の目標を比較すると、「話すこと[やり取り]」と「話すこと[発表]」の目標ア、イ、ウは、話題や伝え方がそれぞれ対応していることが分かります。そのため、「話すこと[発表]」と「話すこと[やり取り]」の関連を意識しながら、指導することが大切になります。

「話すこと[やり取り]」	「話すこと[発表]」
ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で <u>伝え合う</u> ことができるようにする。	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で <u>話す</u> ことができるようにする。
イ 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて <u>伝えたり、相手からの質問に答えたり</u> することができるようにする。	イ 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて、 <u>まとまりのある内容を話す</u> ことができるようにする。
ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて <u>述べ合う</u> ことができるようにする。	ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて <u>話す</u> ことができるようにする。

「発表」で終了ではなく、「発表」から「やり取り」へ

これまでの指導では、「自分が行ってみたい国を紹介しよう！」というような学習活動を行う場合、発表の組み立てや使用する表現等を吟味しながら発表し、発表後は発表に対する評価をさせることが多かったのではないかと思います。

しかし、発表が終わった後に、「I want to go to China, too. I like Chinese food. Do you like

Chinese food?»などと英語で質問をしたり質問に答えたりする場面を位置づければ、「話すこと[やり取り]」と関連させて指導することができます。



授業への提言 Part3

会話を継続・発展させる表現を身に付けさせよう！

会話を継続・発展させる表現について

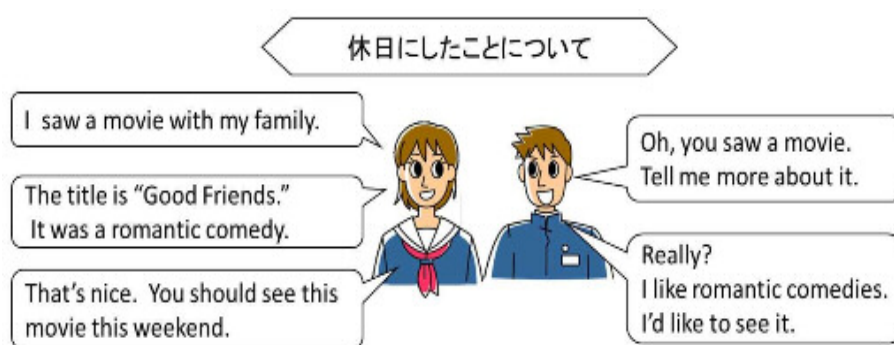
「話すこと[やり取り]」の目標の一つに、「関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。」ことが示されています。この目標では、音楽やスポーツ、映画、休日の計画、日常の出来事など、生徒が共通して関心をもっていることを取り上げ、相手の発話に応じて、即興で質問や意見を述べながら、対話を継続・発展させることが求められています。

「即興で伝え合う」ことについては、小学校外国語科においても、その場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合う学習をしています。その上に立って、中学校では、次のような表現を使用しながら、即興で対話を継続・発展させることが求められています。

- 相手に聞き返したり確かめたりする (Pardon? / You mean..., right?)
- 相づちを打ったり、つなぎ言葉を用いたりする (I see. / Really? / That's nice. など)
- 相手の答えを受けて、自分のことを伝える (I like baseball, too. など)
- 相手の答えや自分のことについて伝えたことに「関連する質問」を付け加える (What kind of food do you like? / How about you? など)

会話を継続・発展させる表現を身に付けさせるために

まずは、短い時間で相手に質問したり、質問に答えたりしながら会話を継続する活動を様々な場面に位置づけることが大切です。例えば、右のように「休日にしたこと」を伝え合う場面を位置づ



け、相手の発言に対して質問や感想を述べるようにします。

その際、活動中の言語使用について具体的にフィードバックしたり、活動後に自分が使用した英語について振り返り、場面に応じた適切な表現方法を確認する機会を与えたりすることも大切です。例えば、生徒が会話を続けるのに困っている際に既習の表現を想起させたり、適切に会話を継続させている生徒の姿をモデルとして全体で共有したりするのです。

このような活動を積み上げることが、即興でやり取りする力を育むことにつながります。

条件を変えながら会話のレベルをステップアップさせよう

即興で会話を継続・発展させることができるようにするためには、一度に多くのことを望まず、段階的に生徒の力を高めていくことが大切です。そこで、次のように、条件を変えながら伝え合う活動を位置づけてみてはいかがでしょうか？

活動例

まず、あるトピックについて英文を作らせます。次に、生徒同士でペアを組み、お互いに内容を紹介させます。その後、ペアを交替しながら紹介を繰り返させます。その際、ペアを交替するごとに、次のように活動の条件を少しずつ変えていきます。

条件1：「書いた英文を見ながら話してもよい」と指示する。話し終わったら、適宜、質疑応答させる。

条件2：書いた英文を見てもよいが、話す際には相手の顔を見るように指示する。

条件3：一文ごとに相手の顔を見て、“OK?” や “Do you understand?” などと言いながら相手の理解を確認するように指示する。聞き手が理解していない場合には、繰り返したり説明を加えたりさせる。

条件4：条件3に加えて、聞き手に質問したり、感想を述べたり、相づちを打ったりするように指示する。

【指導上の留意点】

教師は、(1)英文をつくらせる時の指導（例文の提示や添削等）と(2)相手の理解を確認する言い方（“OK?” や “Do you understand?” “Do you have any questions?” 等）や、質問の仕方、相づちの表現、感想の言い方などの指導を行います。

コラム

“planned speech” と “unplanned speech” について

発話には、“planned speech”（準備のある発話）と“unplanned speech”（準備のない発話）があります。「準備のある発話」とは、話す内容や表現を思い描いてから話すことや、あらかじめ原稿を書いておいてから話すことです。「準備のない発話」とは、その場で即座に話すことを指します。しかし、どちらの発話についても、①概念化の段階（内容を考える段階）、②言語化の段階（その内容がある言語で表現する段階）、③音調化の段階（実際に音声化する段階）という段階を経ます。

そのため、即興で「伝え合うこと」や「話すこと」を指導するからといって、常に「準備のない発話」を行わせるのは不自然です。言語活動の中で、「準備のある発話」と「準備のない発話」のバランスを取るよう工夫していきたいものです。

授業への提言 Part4

語彙や文法は、コミュニケーション場面を通して指導しよう！

なぜ、コミュニケーション場面を通して指導するのでしょうか？

新学習指導要領では、実際のコミュニケーション場面を通して語彙や文法を指導することが重視されています。では、なぜ、そのような指導が必要なのでしょうか？

例えば、「代名詞の所有格」を指導する場面において、教師が“my”や“your”を使用した例文を提示して意味や用法を説明し、生徒に“my”や“your”を使った文を繰り返し言わせたり書かせたりするような指導があります。このような指導に対して、教師とALTが互いの趣味を伝え合う様子を見せ、“my”や“your”の意味や用法を確かめた後に、下のよう
に生徒同士で互いの趣味を伝え合う言語活動に取り組みさせるような指導もあります。



2つの大きな違いは、前者が“my”や“your”を機械的に使用させているのに対し、後者は具体的な状況の中で使用させていることです。文法を実際のコミュニケーション場面で活用できるようにするためには、文法の意味や用法だけでなく、「どのような状況で活用できるのか」という機能まで捉えることが必要です。そのため、実際のコミュニケーション場面を通して語彙や文法を指導することが重要なのです。

小学校の学びを生かした文法指導に転換を！

小学校では、新たな言語材料を指導する時、場面や状況が明確な中で教師やALTが使用するのを見せたり、具体的なコミュニケーション場面で児童に使用させたりして、新たな言語材料に慣れ親しむようにしています。

また、「書くこと」についても、音声で十分に慣れ親しんだ上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて書かせるような指導が行われています。

そのため、小学校との円滑な接続を図る上でも、具体的なコミュニケーション場面を通して新たな文法に出会わせたり、具体的なコミュニケーション場面で使用させたりして、文法の意味や用法、機能を捉えさせるような文法指導に転換する必要があります。

生徒の気づきを生かして指導しよう！

小学校と異なり、中学校では文法の意味や用法、機能を生徒にきちんと捉えさせる必要があります。しかし、教師が文法の説明を一方的に行っても、指導の効果はなかなか上がりません。下記のように、ねらいとする文法の具体的な使用場面を提示し、生徒自身の気づきを促しながら指導すると効果的です。

① 生徒とやり取りをしながら文法の使用場面を例示する。

教師が自分自身の訪れた観光地について、生徒とやり取りをしながら **There is (are)** 構文の使用場面を例示します。その際、**There is (are)** を使用している部分を繰り返して、生徒の気づきを促す工夫をします。

T: I had a great time last weekend. I went to Matsuyama.

S1: 松山って愛媛？

T: That's right. Have you ever been to Matsuyama?

Ss: No.

T: Well, there is a beautiful castle in Matsuyama City.

Look at this picture. (松山城の写真を見せながら)

Do you know this castle?

S2: Yes! 松山城！

S3: きれい！

T: Yes, it's beautiful. The castle is near Ehime Prefectural Office. After I visited the castle, I ate *taisomen* for lunch. (鯛そうめんの写真を見せる)

S4: おいしそう！

T: There are many restaurants with local dishes in the town. [鯛そうめん]

Matsuyama is famous for its *taisomen* and *taimeshi*.

I enjoyed them very much. Do you want to go to Matsuyama?



[松山城]



[鯛そうめん]

② 生徒に規則を発見させる。

There is (are) がどのように使われていたかを生徒に質問します。そうすることで、「松山城の時は、“is” だったけど、レストランの時は“are” だった。」「レストランは“many” だから複数。複数の時は“are” なのかも…」などと気づきが生まれます。

③ 簡単に文法規則を説明する。

生徒の気づきを尊重しながら文法についての説明を加えます。「**There is (are)** は、相手にとって新しい話題を示す場合に使用する」ことも補足します。

授業への提言 Part5

授業は英語で行うことを基本としよう！

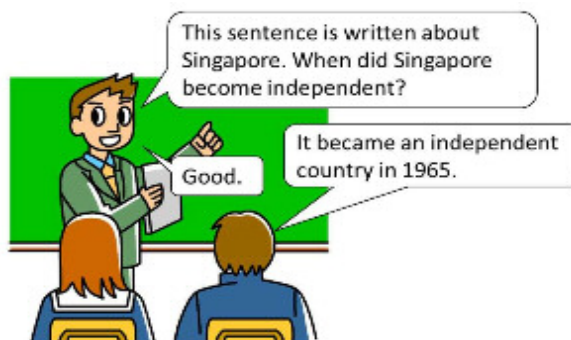
なぜ、授業を英語で行うことを基本とするのでしょうか？

授業を英語で行うことのねらいは、生徒が英語に触れる機会を確保することと、授業全体を英語を使った実際のコミュニケーションの場面にすることです。

生徒が日常生活で英語に触れる機会は限られていますが、授業を英語で行えば、生徒が英語に触れる機会を増やすことができます。また、

教師自身が英語を積極的に使う姿勢を示すことが、生徒の積極的な英語使用につながります。さらに、英語での指示や発問を受け、生徒が活動に取り組んだり、発問に英語で答えたりすること自体が、英語を使った実際のコミュニケーション場面になります。

このように、授業を英語で行うことには、生徒のコミュニケーション能力を高める上でたくさんの効果が期待できます。このことを理解し、積極的に英語を使用していきましょう。



日本語は一切使用してはいけないのでしょうか？

授業を英語で行うに当たっては、生徒の理解の程度に応じて英語を用いることが大切です。例えば、既習の表現を用いながら教科書の内容を説明したり、生徒の反応を見ながら平易な語句や文で言い直したりして、生徒が理解できるようにしていきます。

ただし、次のような場合、日本語を使用して補足することも考えられます。

<文の構造を説明する場合>

英文の形式に着目し、文の構造を理解することは、生徒にとって容易ではありません。それなのに、“This noun is an object of this sentence.”などと英語で説明するだけでは、生徒は困惑し、大切な学習内容が不十分な理解のまま終わってしまうことになります。

<複雑な言語活動の進め方を説明する場合>

言語活動が複雑な場合、英語だけでは進め方がうまく伝わらず、期待どおりの言語活動ができなかったり、活動時間が十分に取れなくなったりします。

<活動後のフィードバックを行う場合>

活動後に生徒のよさや課題を伝えることは教師の大切な役割です。“Very good!”や“Try again.”と英語で伝えるだけでなく、「体験と意見がしっかり書けていてよかった」「時間の流れがわかりにくいので接続詞を入れて話そう」などと補足することも大切です。

教師と生徒のインタラクションを生かして指導しよう！

教師と生徒のインタラクションを通して指導することで、指導の効果を高めることができます。具体的には、教師と生徒のインタラクションの中で、教師が生徒の発言に対する“feedback”や“recast”などを行い、生徒が自らの言語使用の誤りに気付き、修正するように促します。下記の例を参考にしながら取り組んでみましょう。

① 明示的な訂正	<p>S: The dog runs fastly. T: ‘Fastly’ is not a word. ‘Fast’ does not take -ly. The correct word is ‘quickly.’</p>
② 言い直し (Recasts)	<p>S: Why you don’t like Apple Pie? T: Why don’t you like Apple Pie? S: I don’t know, I don’t like it.</p>
③ 明確化要求 (Clarification requests)	<p>T: How often do you wash the dishes? S: Fourteen. T: Excuse me? (clarification) S: Fourteen. T: Fourteen what? S: Fourteen for a week. T: Fourteen times a week? (recast) S: Yes. Lunch and dinner.</p>
④ 文法説明やり取り (Metalinguistic feedback)	<p>S: I watch the TV program yesterday. T: What’s the ending we put on words when we talk about the past? S: e-d T: That’s it!</p>
⑤ 引き出す、聞き出す (Elicitation)	<p>S: My father washes the plate. T: Excuse me, he washes the _____? S: Plates. T: That’s right!</p>
⑥ 繰り返し (Repetition)	<p>S: He’s in the bathroom. T: Bathroom? (repetition). Bedroom. He’s in the bedroom. S: We is ... T: We is? But it’s two people, right? Do you see your mistake? Do you see the error? When it’s plural, it’s ‘we are.’</p>

授業への提言 Part6

構成を意識しながら書くことを指導しよう！

和文英訳の英作文から、自由英作文へ

これまでは、英作文といえば、日本語で書かれた文を英語に書き換えるという和文英訳が数多く行われてきました。しかし、これからの外国語教育では、目的や相手、状況等に応じて、自分の思いや考えを記述する自由英作文の指導が重要になります。適切な言語材料を活用し、思考・判断して情報を整理するとともに、自分の考えなどを形成、再構築することの重要性は、学習指導要領に



において示されており、近年の高校入試や大学入試においては、語数制限のもとで自分の思いや考えを理由や根拠とともに記述する設問も増えてきています。

そのような文章を書くためには、1文を正確に書くことばかりに気をとられるのではなく、文章全体で何を伝えたいのかを考えて、文の流れを組み立てることが重要です。「導入—本論—結論」や「主題—根拠や具体—主題の言い換えや要約」など、文章構成の特徴を意識しながら書くことを積み上げていきましょう。

OREO 構造を意識して書かせましょう

論理的に自分の考えを伝えるための文章構成の1つに「OREO 構造」というものがあります。これは、Opinion (意思表示) → Reason (理由) → Example/Experience (根拠) → Opinion (結論) という構成になっており、論理的に自分の思いや考えを伝えるのに効果的です。

「OREO 構造」に沿って自分の思いや考えを書くことを積み上げることで、文と文の順序や相互の関連に注意を払いながら、全体として一貫性のある文章を書く力を高めることができます。

なお、このような力を高めるためには、書きやすい話題から書き始め、社会的な話題についても自分の考えが書けるようにしていくことが大切です。

“What is your favorite season?”	
Opinion (意思表示)	My favorite season is summer.
Reason (理由)	I like it because there are a lot of fun for me.
Example/ Experience (根拠)	During summer I can go camping. It'll be great fun to cook dinner by ourselves and see many beautiful stars. And I'd like to go and watch fireworks with my family. The fireworks are so beautiful in the dark sky.
Opinion (結論)	So I like summer the best.

授業への提言 Part7

プロジェクト学習で生徒が主体的に学ぶ授業を構成しよう！

プロジェクト学習とは

最終的なゴールとなる表現活動に向けて、問題解決的に行っていく学習過程がプロジェクト学習です。このプロジェクト学習は、英語を使って相手に伝えたり、尋ねたりし、相手の反応に応じて即興的にやりとりをするなどの最終的なゴールを目指すことから、学習への内発的な動機付けとなり、効果的にコミュニケーション力を育むことができます。

プロジェクト学習の特徴

- ① 段階的・継続的な学習のため、学習内容の定着や表現力の向上が期待できる。
- ② 学習目標・方法が明確であるため、学習への内発的な動機づけとなり、主体的な学習につながる。
- ③ 課題解決に向け「書くこと」「話すこと」「読むこと」「聞くこと」を統合的に活用する活動を仕組むことから、効果的にコミュニケーション能力を養うことが期待できる。
- ④ 言語材料や文法等教科書の内容に連動させた学習活動を設定することができる。

プロジェクト学習における「最終的なゴール」の設定について

教科書の「My Project」では、「自己紹介をしよう」「将来の夢を語ろう」「伝統文化を説明しよう」などが設定されています。最終的なゴールの設定については、右記のことに留意し、工夫する必要があります。

上手にわかりやすい説明をするぞ！



- 自分の将来や学校行事、身の回りの人や物やことに関する内容等、生徒が強い目的意識をもって取り組むことができる内容
- 最終的なゴールのために、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」の活動を仕組むことができるような内容

プロジェクト学習の最終的なゴールの例


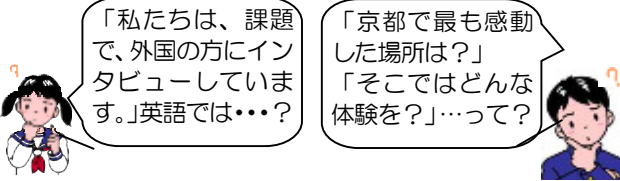
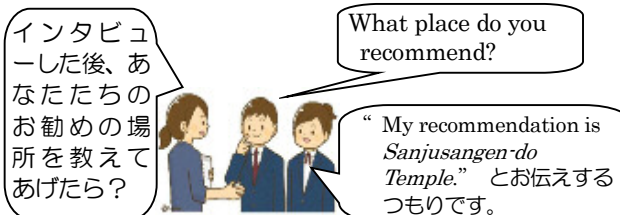
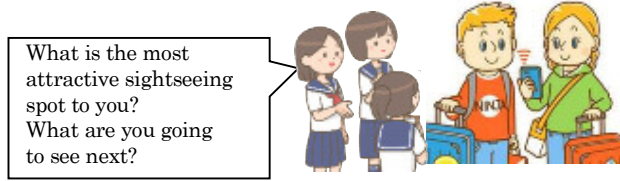
- 久留米市のお勧めの観光スポットをALTにプレゼンテーションしよう。
- 久留米の歴史や文化、グルメや特産物、伝統工芸に関するコマーシャルVTRを作ろう。
- イングリッシュスピーチフェスティバル ‘To hear my future dream !’
- お気に入りの人や物を紹介し、それに対して質問しよう。【参考資料1年 pp. 24】
- ALTに、久留米の紹介をしよう。【参考資料2年 pp. 27】
- あの人にインタビューしよう。【参考資料3年（Sunshine English Course3より）pp. 30】

※ 教科書（Sunshine English Course 1～3 開隆堂）において、いくつかのプログラムごとに設定してある「My Project」から始めてみましょう！

プロジェクト学習の一般的な学習プロセス

プロジェクト学習は、教科書の学習内容を連動させ、段階的・計画的に作成していきましょう。また、生徒の実態等に応じて、教科書のプログラム（1単元）毎に設定したり、複数のプログラム毎に設定したりして工夫することが大切です。また、学校行事や総合的な学習の時間など他の教科等との関連を図るとより効果的です。

【プロジェクト学習例】

段階	ねらい ・ 主な活動	具体例等
つかむ	<p>「最終的なゴール」を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最終的なゴールの確認 理想の表現のイメージ グループ内役割分担 最終的なゴールに向けて必要な情報収集の計画 	<p>【修学旅行先(京都)で、観光に来られた外国の方に日本文化のよさについてインタビューしよう】</p> <p>○VTR視聴やALTと先生によるデモンストレーション等</p> <p>○「日本文化のよさ」の予想される回答の洗い出し（マッピング、マインドマップ等）</p> 
つくる	<p>新しい語彙、文法等の意味や表現等の用法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書題材（各プログラム）学習（本文内容理解・音読等） 新出言語材料の理解と定着 グループ内で分担した情報の集約 最終的なゴールの表現活動のための英文の作成 作成した英文による対話等 <p>※スモールステップで繰り返して言語活動を行うことが大切です。</p>	<p>○新出言語材料の意味、形式、機能等の学習と定着のためのドリル学習等</p> <p>○インタビューに必要な英文の作成（シナリオ作成、対話を通して相互評価等）</p>  <p>インタビューの時、前の時間学習した「Where did you...?」「to 不定詞」がインタビューには必要だ！ 使える！</p>
ふかめる	<p>最終的なゴールに向けて、表現活動の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現活動のための原稿づくりとグループ内でのシミュレーション等 グループ間で相互評価と修正 リハーサル 	<p>○インタビューの役割分担と実践練習</p> <p>○教師やALTを相手にしたりリハーサル</p> 
いかす	<p>相手を意識して、最終的なゴールの表現活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実践場面での表現 相手の発表に対する問答等のやりとり 学習の振り返り 	<p>○修学旅行（京都）の班別自主散策中にインタビュー活動の試行実践</p> 

第3章

実践のための参考資料

コミュニケーション能力を高めるためには、どのような授業を行えばよいのかについて、具体的な実践事例を基にしながら紹介します。

【実践事例】(教科書の学習の後、発展的活動としてプロジェクト学習を仕組む場合)

1年	<p>お気に入りの人や物を紹介し、それに対して質問しよう (PROGRAM5～PROGRAM8)</p>
----	--

1 単元の目標

教科書 Pro. 5～Pro. 8 の学習内容を活用し、自分のお気に入りの人や物を紹介する活動を通して、「be 動詞」や「一般動詞」、「助動詞 can」等を用いた英文の構成を考え、紹介された内容に対して、リアクションしたり、聞き返したり、内容に質問したりして即興でやり取りができるようにする。

2 単元計画

段階	配時	○主な学習活動・内容	指導のねらい
つかむ	1	<p>○最終的なゴール「お気に入りの人や物を紹介し、それに対して質問しよう」を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTとJTEのやり取りによるゴールのイメージづくり ・ウェビングマップによる情報整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的なやり取りの仕方をイメージすることができるようにする。 ・情報収集の計画を立てさせる。
つくる	1	<p>○英語で紹介文を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習文法事項 (Pro.5～Pro.8の内容を中心に) 確認 ・ウェビングマップの内容を用いて紹介文作成 ・ He is ～. ・ He likes ～. ・ He can play ～. 	<ul style="list-style-type: none"> ・ be 動詞と一般動詞、三単現の「s」と動詞の原形等が正しく使えるようにする。
ふかめる	3	<p>○リアクション、聞き返し、質問と応答等の基本的なやり取りについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Really? ・ Me, too. ・ I like ～, too. (リアクション) ・ Is he ～? ・ Does he ～? ・ Can he ～? (聞き返し) ・ What ～ does he like? ・ Sorry, I don't know. (質問と応答) 等 <p>○友達の発言に対し、リアクションや質問等を即興的に行う練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 写真中の人物の嗜好を見取り、素早く人物紹介をするタスク活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 即興でやり取りをするために必要な表現や発音の仕方等を理解することができるようにする。 ・ 友達の発言を意欲的に聞き、自分の考えや思いを発言できるようにする。 ・ タスク活動を通して、「やり取り」や「即興性」の意識を高めさせる。
いかす	1	<p>○グループごとにお気に入りの人や物の紹介をし、即興で内容に関するリアクションや質問、それに対する応答のやり取りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ What food does he like? ・ He likes <i>ramen</i>. 等 <p>○学習の振り返りを行い、紹介した内容やリアクション等について評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紹介した英文の内容 ・ 発音 ・ 表情やジェスチャー 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紹介に対するやり取りを即興で行い、英語でのコミュニケーションを意識することができるようにする。 ・ 活動を振り返り、成果や課題を明確にできるようにする。

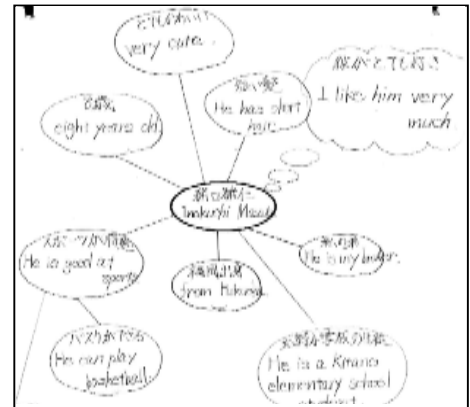
3 指導の実際

つかむ段階 人や物の紹介に対して、リアクションしたり質問したりして、即興でやり取りをするという最終的なゴールを示し、学習の見通しをもたせる。

最終的なゴールの活動をイメージすることができるように、ALTが人物紹介をしJTEが尋ねる、即興でやり取りを行う活動を設定した。

次に、紹介する人や物を考え、ウェビングマップを用いて情報の整理を行わせた【資料1】。

生徒は、学習の見通しをもつとともに、やり取りの内容が既習の表現であり、簡単なフレーズであることに気付き、英語でのやり取りへの抵抗感がなくなったようであり、本活動への学習意欲をもたせることができた。



【資料1】生徒作成のウェビングマップ

つくる段階 既習内容を想起させ、英語で自分のお気に入りの人や物の紹介文を作ることができるようにする。

ウェビングマップで整理した情報をもとに、自分のお気に入りの人や物を紹介するための5～7文で構成する英文を作成する活動を設定した。【資料2】は、実際に生徒が作成した英文である。まず、既習内容である be 動詞や一般動詞、さらには can 等を用いることでより分かりやすく紹介する文章になることを確認した。

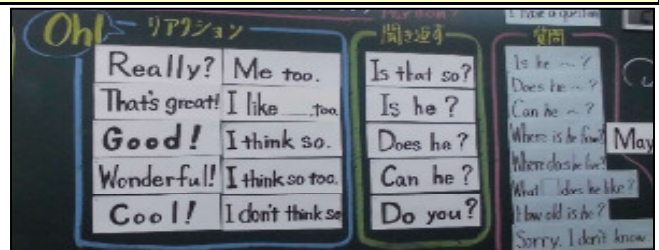
また、作成する際には、実際に紹介する場面をイメージして、身振りや手ぶりや表情、強調する単語や抑揚など、わかりやすく紹介する工夫も考えるようにした。



【資料2】生徒が作成した実際の英文

ふかめる段階 紹介されたことに対して、簡単なリアクションや質問をしたり、実際に自分の思いや考えを即興で伝えたりすることができるようにする。

まず、日常の会話の中で自分たちが使っているリアクション、聞き返し、質問が英語ではどう表現するのか、また、どのような場面で使用するのかを確認する活動を設定した【写真1】。



【写真1】リアクション、聞き返し、質問の際使用する

次に、【資料3】のような写真や図をモニター画面に数枚提示し、中央の人物の年齢、好み、得意等をペアで瞬時に紹介するタスク活動を設定した。ペ



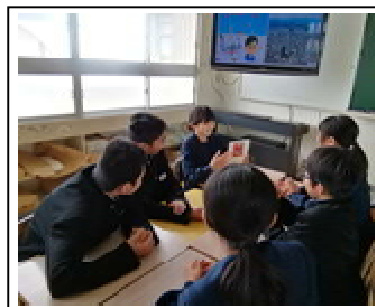
【資料3】タスク活動で使用した写真や図

アのうちどちらが先に紹介し始めてもよく、紹介される側となった生徒は、それを聞いて何か一つ質問をするというタスクである。生徒は、既習内容を用いて“*She is twelve years old.*” “*He likes ramen.*” などのように写真を見て瞬時に紹介し、“*Do you like Disneyland?*” “*Can you cook ramen?*” などとリアクションしたり質問したりして即興でやり取りをすることができていた。また、テレビモニターに NO. 1、NO. 2、・・・と次々に写真が提示されるため、素早く紹介する必要があり、生徒にとっては、ゲーム感覚でモニターの写真を見取り、その人物の趣味や状況等を瞬時に話すという即興のやり取りのトレーニングになる活動となった。なお、活動を重ねる中で“*Oh, is he?*” “*Pardon?*” などの聞き返しを自ら加えるなどして、リアクションの選択肢を増やしていく生徒も増えてきた。このように、単に人物紹介を聞く活動をペアで行うだけでなく、内容に関する質問やリアクションを行うことで、やり取りの質を高めることができると考える。

いかず段階

お気に入りの人や物を紹介し、その内容に対する質問をする活動を通して、即興でやり取りができるようにする。

次に、クラスを1グループ5～6人の6グループに分け、これまでの学習の成果を発揮することができるように、最終的なゴールである「お気に入りの人や物をグループで紹介」し、それに対して質問をする活動を設定した【写真2】。



【写真2】グループで紹介し、質問する様子

下のグループ内でのやり取りのように、紹介する側は、これまで調べた情報と作成した紹介文を用いてわかりやすく一文ずつ話し、それを聞いた生徒は、聞き返したり、紹介者の情報を聞き出そうと質問を繰り返したりすることができていた。

【グループに代表が話しかける】

S1: This is Hirate Yurina.

S2: Oh, great! (Good. など) 【リアクション】

S1: She is from Aichi.

S3: Oh, Aichi? (Oh, really? / Oh, is she? など) 【リアクション 聞き返し】

S1: She is good at basketball.

S4: Oh, really? (Great! / Basketball? など) 【リアクション 聞き返し】

S1: Yes.

【一人ずつ質問する】

S5: Can she sing well? 【質問】

S1: Yes, she can. 【応答】

そして、代表3人がクラス全員に対して自分のお気に入りの人物を紹介し、それに対して全員が即興でリアクションしたり質問をしたりする活動を設定した。生徒は、グループ内のやり取りとクラス全体でのやり取りの活動を通して、英語だけで会話ができた充実感を味わうことができていた。

最後に、相手にとってわかりやすい紹介文や発音の仕方などについて振り返りを行った。

本活動を通して次のような成果が得られたと考える。

- ・導入段階で、ゴールの姿を示したり、既習の平易な表現が活用できることを確認したりすることで、英語で話すことへの抵抗感をなくすことができ、意欲的な活動につながった。
- ・生徒にとって「やり取り」は、はじめは困難な活動と捉えられていたが、新鮮に受け入れ、予想以上に積極的で、熱心に表現することの楽しさを味わうことができていた。
- ・従来のように「発表」だけで終わるのではなく、「発表」と「やり取り」を関連させたことで、生徒が即興でやり取りする意欲を醸成することができた。
- ・1年生に「やり取り」を行わせるのは無理なのではないかと考えていたが、手順を工夫すれば、熱心にやり取りするコミュニケーション力を身に付けることができるとわかった。

【実践事例】(教科書の1単元と関連させてプロジェクト学習を仕組む場合)

2年	<h2 style="margin: 0;">A L Tに久留米の紹介をしよう</h2> <h3 style="margin: 0;">(PROGRAM 5)</h3>
----	--

1 単元の目標

初めて久留米市に勤務するALTに、久留米市の歴史や文化、名所、特産物等を英語で紹介するという活動を通して、“There is～”や「接続詞 when、if」を用いて英文の構成を考え、相手の趣味や意向に即した提案や説明を行い、質問に対し即興で応えることができるようにする。

2 単元計画

段階	配時	○主な学習活動 ・内容	指導のねらい
つかむ	1	○最終的なゴール「A L Tに久留米を紹介しよう」を確認し、学習の見通しをもつ。 ○紹介する内容（事柄）と方法について“can”、“should”“Would you like～?” やくるめ学で学習した内容等から想起する。 ・ウェビングマップによる情報整理 ・必要な語句や文章構成	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進め方等について見通しをもつことができるようにする。 ・グループごとに情報収集等の計画を立てさせる。
つくる	5	○教科書 Pro. 5 Gulliver’s Travels を通して新出言語材料の構文と意味やその用法を理解する。 ・ There is (are) ～ ・接続詞の when、if ○紹介したい内容を焦点化するために、A L Tにインタビューする（趣味、食べ物、家族 等）。	<ul style="list-style-type: none"> ・新出言語材料を使って「久留米に～がある」という英文を作り対話活動をさせる。 ・紹介するために必要な他の表現方法や予想される質問をまとめさせる。
ふかめる	3	○紹介する内容をカテゴリー（食、名所、特産物等）別に英文で作成する。 ○紹介した内容に対する質問を予想し、それに対する回答の英文を作成する。 ○グループ内でシミュレーションと評価活動を行う。 ・紹介する順番、英文の構成、発音、資料写真等の提示の仕方 等 ○「久留米を紹介する」ための準備と練習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・副読本やインターネットを使って情報収集を行い、紹介内容をまとめさせる。 ・A L Tにとってより分かりやすい紹介となるように、グループ内でシミュレーションを行い修正させる。 ・A L Tからの質問を想定し、応答の練習を行わせる。
いかす	2	○A L Tに「久留米の紹介」の発表を行う。 ○自分の説明に対してA L Tからの質問に適切に対応する。 ○学習の振り返りを行い、本単元のまとめを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の意向や状況に応じたプレゼンを作り、発表練習をさせる。 ・活動全体の振り返りを行い、成果や課題を明確にできるようにする。

3 指導の実際

つかむ段階 「ALTに久留米の紹介をしよう」という最終的なゴールを示し、学習の見通しをもたせる。

学習の見通しをもたせるために、「ALTに久留米の紹介をしよう」という最終的なゴールを目指すことを確認した後、ウェビングマップによりグループごとに紹介する内容の洗い出しを行った【資料1】。

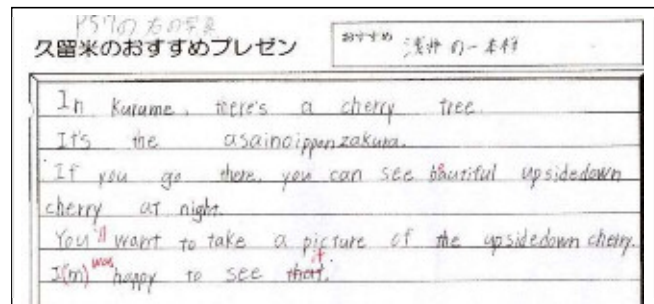


次に、見えそうな既習の言語材料を想起する活動を設定し、本活動においての学習内容の確認を行った。さらに、未習の言語材料についての必要性を確認し、Pro. 5の本文の内容と久留米の紹介をするために、くるめ学で学習した内容を振り返る活動を設定した。生徒は、グループごとにALTに紹介する活動に見通しがもてたことで、本活動への学習意欲を持つことができた。

【資料1】生徒作成のウェビングマップ

つくる段階 新出言語材料 “There is (are) ~”、接続詞 when、if の意味や用法について理解することができるようにする。

教科書 Pro. 5 の新出言語材料である “There is (are) ~” や接続詞 when、if を学習する活動、それらを使って、ウェビングマップで洗い出した久留米の名所や食べ物、名物等について英文を作成する活動を設定した【資料2】。



【資料2】生徒が作成した英文

さらに、Pro. 5-3 で学習する観音崎の紹介文を参考にして、教科書の WORD BOX を使って紹介文を作成する練習を行った。生徒は、“There is (are) ~” “when~” や “if~” を実際に使う場面を想定し、英文の構成を考えながら学習に取り組むことができた。

そして、実際にALTの趣味や興味等を把握することができるように、ALTにインタビューする活動を設定し、紹介する内容のイメージを持たせた。

このような活動を通して、生徒は、最終的なゴールを目指していく過程で、教科書の内容を理解することや新しい言語材料の学習に目的意識をもって取り組むことができ、教科書で学習した内容を実際に利用する価値に気付いたり、わかりやすく発音して話すことの大切さを実感したりすることができた。

ふかめる段階 ALTに「久留米の紹介をする」原稿を作り、予想される質問や質問に適切に応えることができるようにする。

“There is (are) ~” などの既習事項を使って、久留米の紹介をする準備のために、ジャンル（名所、お祭り・食べ物・特産物など）を確認し、紹介する内容を絞る活動を設定した。次にグループ内でジャンル別に誰が何を紹介するのかを決めさせ、担当ごとに実際の発表原稿を作成したり、より分かりやすく説得力のある紹介のために、写真や関係するパンフレット等を資料として準備したりする活動を設定した。

紹介する原稿や提示資料等の準備ができた後、グループ内で紹介する練習を行った。また、その後、グループ間で紹介し合うシミュレーション活動も設定した。この活動を通して生徒は、他のグループの分かりやすい紹介の仕方や発音の仕方等を参考に改善点を見出していた。例えば、豊かな表情で紹介したり写真やパンフレット等の提示するタイミングなどを修正したりしていった【写真1】。

さらに、紹介した内容について、ALTから質問されることを予想する活動を設定した。生徒は、「紹介したおいしいラーメン店に行ったことがあった場合どうするか」や「名所の場所に電車やバスで行く場合どうするか」などの質問を予測し、それに適切に答える内容や方法を考えることができ、次の段階の実際にALTに紹介する活動において、意欲的に取り組むことができていた。



【写真1】グループ間でシミュレーションしている様子

いかす段階 ALTに久留米の紹介の発表とやり取りができるようにする。

グループごとにALTに久留米の紹介を行う活動を設定した。紹介するグループは実際にALTに対して写真などを使って発表を行い、他のグループは、その発表の内容について英語でやり取りを行い、お互いに評価する活動を設定した。



【写真2】ALTに紹介している様子

紹介するグループは、ALTの興味・関心を引こうと熱心に紹介し、ALTから予想していなかった質問が出た際も既習内容を想起して回答するなど工夫が見られた【写真2】。

また、紹介した活動を自己評価する場面では、生徒は、自分たちのプレゼンテーションの構成や順序、発音や声量、相手の様子等を振り返りながら、様々な観点から評価をすることができていた。


全グループの紹介の後、ALTからの講評を聞く場を設定した。ALTからは、「初めの頃の発表では、質問がなかなか出なかったけれど、後になるにつれてやり取りを繰り返すことができるようになってよかった」という助言をもらうことができた。

[久留米の紹介例]

[質問内容]

In Kurume, there's a famous cherry tree.
It's "Asai no ipponzakura."
If you go there in fall, you can join Haze festival. You can buy vegetables and fruits there.
If you go there in spring, you can see a beautiful cherry tree. You can see "upside down cherry tree" at night. It's very beautiful.
You can see the full bloom tree in spring.

Q : Did you go there?
A : No, I didn't.
Q : Where in Kurume is the "Asai no ipponzakura"?
A : It is in Yamamoto town at the east of Kurume. You can go there by bus.
Q : When is the Haze festival?
A : It is every November.



【実践事例】(教科書の複数単元と関連させてプロジェクト学習を仕組む場合)

3年

ALTのよさが伝わる推薦文を書こう
(PROGRAM2、PROGRAM3、My Project 7)

1 単元の目標

「ALTのよさが伝わる推薦文を書こう」の活動を通して、情報を集めるためのインタビュー活動や目的に合わせた質問、相手の答えからさらに質問などを行うとともに、即興でやり取りができるようにする。

2 単元計画

段階	配時	○主な学習活動・内容	指導のねらい
つかむ	1	<ul style="list-style-type: none"> ○最終的なゴール「来年も現在のALTに来てもらうための推薦文を書く」を確認し、学習の見通しをもつ。 ○推薦文のテーマとなるALTのよさを出し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ウェビングマップによる意見交流(優しい・教えるのが上手等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・推薦文を書くプロジェクトの見通しをもつことができるようにする。 ・ウェビングマップを用いて情報を出し合う場面を設定し、グループで出たアイデアを広げることができるようにする。
つくる	2	<ul style="list-style-type: none"> ○インタビューの準備をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・対話のつなぎ方 ・インタビューの構成(質問の順番・コメント・役割分担・イメージ) ・ALTのよさを引き出す質問とその回答の予想 ・予想されるALTの答えから、さらに情報を得るための質問の用意 ・他の班と課題・アイデア・情報の交換 ・既習の言語材料の確認(受け身・現在完了・不定詞) ・言語以外の表現の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・付箋による意見・情報の交流を行わせ、よりよいインタビューの構成ができるようする。 ・新たな質問を複数用意させ、ALTから、即興でさらに必要な情報を聞き出すことができるようする。 ・リハーサルを動画で記録し確認させ、言語以外の表現の定着を図る。
ふかめる	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTへインタビューをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・推薦文を書くための情報の収集 ・クラゲチャートへの情報の記録 	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューの様子を動画で記録し、振り返りと内容の確認ができるようにする。 ・インタビューで得た情報を班ごとに整理できるようにする。
いかす	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTの推薦文を書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・クラゲチャートによる情報の整理 ・文章の構成“OREO”の確認 ・これまでに学習した言語材料の確認(疑問詞+不定詞・間接疑問文・分詞) ○次のプロジェクト学習の確認と目標設定をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・成果と課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成と整理した情報の確認を行わせ、伝えたいことをわかりやすく書くことができるようにする。 ・プロジェクト学習の成果と課題および、推薦文を読んだ人からのコメントを伝え、次のプロジェクトへの目標をもつことができるようにする。

3 指導の実際

つかむ段階

「ALTのよさが伝わる推薦文を書こう」という最終的なゴールの見通しをもたせ、推薦文のテーマを決めることができるようにする。

まず、「ALTのよさが伝わる推薦文を教育委員会に宛てて書き、来年も来てもらおう」という最終的なゴールを目指す単元全体の流れ（①テーマ設定②ALTへのインタビュー準備③ALTへのインタビュー④推薦文の作成）をつかませた。

次に、教育委員会に自分たちの主張を納得してもらうために、テーマとなるALTのよさについてウェビングマップ【写真1】を用いて、班ごとに意見を出し合わせた。その際、推薦文を具体的に説得力のある文章にするために、文章の構成（OREO）を意識しながらウェビングマップの考えを広げていくように指示した【写真2】。



【写真1】ウェビングマップ例示



【写真2】ウェビングマップ作成の様子

つくる段階

ALTへのインタビュー準備を通して、相手を意識し、対話をつなげることができるようにする。

まず、「ALTのよさ」を引き出す質問を準備するために、付箋を用いて話し合う活動を設定した【写真3】。

その際、対話のつなぎ方、質問の順番などについて助言し、スムーズにやり取りができるようにした。

次に、優れたインタビューアーやネイティブのインタビューのVTR等（TV番組・記者会見等）を視聴させ、相手が話しやすくなるような、よりよいインタビューのイメージをもたせた。

最後に、対話をつなぐ意識をもたせるために、質問と予想される答えから、さらなる質問とその答えを考える活動を設定した。また、インタビューの方向性を明確にすることができるように、2年生で学習した「対話のつなぎ方」から、質問と答



【写真3】付箋を用いた話し合いの様子

え以外の対話をつなぐ言葉（That sounds great./ I think so too./ Way to go.など）を想起させ、【資料1】のようなインタビュー原稿を作成させた。生徒は、予想されるインタビューの場面に応じた複数の質問やコメントを想定し適切に使うことができるように準備することができた。

※このようなやり取りを4回準備

Opening : Hi, today we have Ariba. Hello, Ariba.
We really like your English class.
Q1 : Why did you become a teacher?
A1(予想) : I like children.
Comment : I see.
さらなる Q: Then why did you decide to teach in Japan?
さらなる A: I really like Japanese people and culture.
Comment : I'm happy to hear that.
Connection: Let's move on to the next question.

【資料1】インタビュー原稿

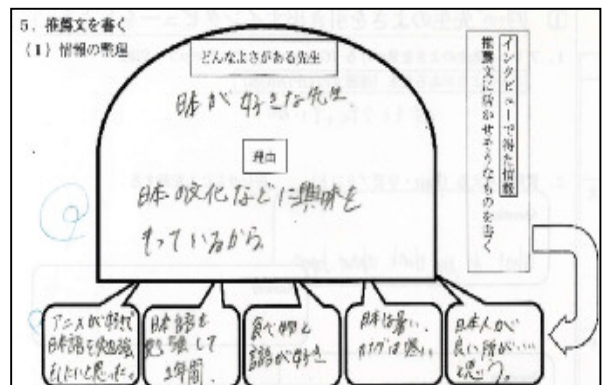
そして、インタビューの直前リハーサルを行う活動を設定した。その際、リハーサルの様子を動画で撮影し、それを視聴させながら自分たちで修正する場を設定した。生徒は、動画による修正とリハーサルを積極的に繰り返し行い、インタビューの精度を上げようと努力していた。

ふかめる段階 インタビューを通して、相手の回答に対してさらに質問をしたり、回答したりするなど、やり取りを続けることができるようにする。

これまでの学習の成果を発揮することができるように、ALTにインタビューをする活動を設定した【写真4】。その際、聞き取った内容を振り返りに活かすことができるように動画に記録させ、クラゲチャートに整理させ、推薦文に活用することができるようにさせた【資料2】。生徒は、「みんなと協力して会話をつないでインタビューができました。」や「英語は難しいけどもっと努力します。」など、難しさを感じながらも英語でのやり取りの楽しさを感じるとともに、積極的に対話をする意欲をもつことができた。



【写真4】インタビューの様子



【資料2】クラゲチャート

いかす段階 ALTのよさをアピールする推薦文を書き、英語による表現活動への意欲をもつことができるようにする。

より説得力のある推薦文を書くことができるように、文章構成（OREO）用ワークシートを記入する活動を設定した【資料3】。

その際、まとまりのある推薦文にするために、班で意見交流をさせた。生徒は、既習内容を活用しながら話し合い、【資料4】のように説得力ある推薦文を作成していった。

最後に、ALT本人と英語教師からの評価、そして教育委員会等からの評価を生徒に示した。生徒は、学習の達成感を感じ、次のプロジェクト学習に向けて、さらに意欲を高めることができた。

文章の流れ	具体的な内容	自分が書く内容
Opening	写真の中の誰がアリバ先生か紹介	彼女にしようよ、アリバ先生
Opinion	どんなよきがある先生か	好きなアニメや日本文化
Reason	なぜそう思うのか	日本の文化などに興味をもっているから
Experience	先生とのかかわりやインタビューから具体的な説明	アリスが好きなアニメや日本文化に興味をもっているから、日本語を勉強しているから。
Example	〇2文以上 〇3年生で習った内容を書ける	日本語を勉強しているから。
Opinion	上に書いたようなよきがある先生なのでこれからどのように英語の勉強や先生とのかかわりをがんばっていくか	先生は、日本のことをもっと知りたいたいから、アリスとたくさん話したい。

【資料3】文章構成用ワークシート

This woman is Ariba. She is interested in Japanese culture. She especially likes Japanese anime so she wants to study Japanese. She has studies Japanese for one year. In our interview, she said, "I want to know more about Japan." I know I can tell her about it. I want to talk with her a lot about Japan.

【資料4】生徒が作成した推薦文

【参考文献】

- 1 文部科学省 「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語編」 開隆堂出版（2018）
- 2 文部科学省 「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語活動・外国語編」 開隆堂出版（2018）
- 3 酒井英樹 「表現力や発信力を高める授業づくり：次期学習指導要領で中学校の英語教育に求められること」英語情報 2017 夏号 日本英語検定協会（2017）
- 4 阿野幸一 「『授業は英語で行うことを基本とする』への取り組み」英語情報 2016 夏号 日本英語検定協会（2016）
- 5 本多俊之、工藤洋路 「どうする？中学校英語見直し会議：英語で行う英語の授業」英語教育 2018 年 6 月号 大修館（2018）
- 6 中央教育審議会 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方針等について（答申）」（2008）
- 7 松村昌紀 「タスクベースの英語の指導：TBLT の理論と実践」 大修館書店（2017）
- 8 「新学習指導要領がめざす英語教育とは」 英語情報 2018 春号 日本英語検定協会（2018）

H30 久留米市教育センター調査研究 外国語教育研究班

山下 孝清（北野中 主幹教諭）

桑野 洋志（教育センター 指導主事）

深野 優圭里（宮ノ陣中 主幹教諭）

徳永 裕輔（教育センター 指導主事）

一木 理恵（青陵中 教諭）

馬渡 茂人（教育センター 指導主事）

財津 春香（東国分小 教諭）

